

機械電子電気系コンソーシアム

飯田精密機械工業会 電子工業会 商工会

建設系コンソーシアム

飯田建設業協会 建築士会 土木会

# 飯田 OIDE 長姫高校

商業系コンソーシアム

飯田市 松本大学 飯田信用金庫

## 未来価値を創る玉手箱「地域協創スペシャリスト」育成プログラム

地域産学官や異業種と協働して新しい付加価値を創造  
**「協創力」育成**

全学科「共通テーマ」の  
地域連携教育

探究型プロフェッショナル  
**「高度な専門性」育成**



機械・電子・電気系学科



建設系学科

「ビジネスと環境」・「環境と金融」・「テックレンジャー・プロジェクト」

### 学科融合と連携

商業系学科



豊富で多彩な学科連携科目



「未来の地域人教育」の実践を通じた主体的な  
**「課題解決力」育成**

3年次 地域課題を研究し改善策を提案し実践

**地域課題解決に向け行動**

2年次 地域行事に参加し仕事を体験

**地域で活動**

1年次 地域資源（産業と強み）を学ぶ

**地域を知る**

「環境保全」「地域資源」「ビジネス」を共通テーマとした  
**専門性の追究**



まちづくりを「ものづくり」と「ビジネス」につなげる  
**地域人教育**



**まちじゅうが教室**

～長野県各地 安曇川下り～



飯田OIDE長姫高校

ふりがな	ながのけんきょういくいんかい	ふりがな	いいだオーアイディーイーおさひめ
管理機関名	長野県教育委員会	学校名	長野県飯田OIDE長姫高等学校

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

#### (1) 管理機関名, 代表者名

管理機関名：長野県教育委員会

代表者名：教育長 原山 隆一

#### (2) 学校名, 校長名, 研究を実施する学科

学校名：長野県飯田OIDE長姫高等学校 学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：原 康倫

研究を実施する学科（プロフェッショナル型のみ）：

①単独学科での実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉
②学科連携による実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉
		○	○					

※学科には、総合学科における総合選択科目群を含む。

### 2 取組内容

先進的な地域課題研究等の実績を踏まえた、地域人材育成に資する発展的な実践を行う。

### 3 管理・運営方法

#### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

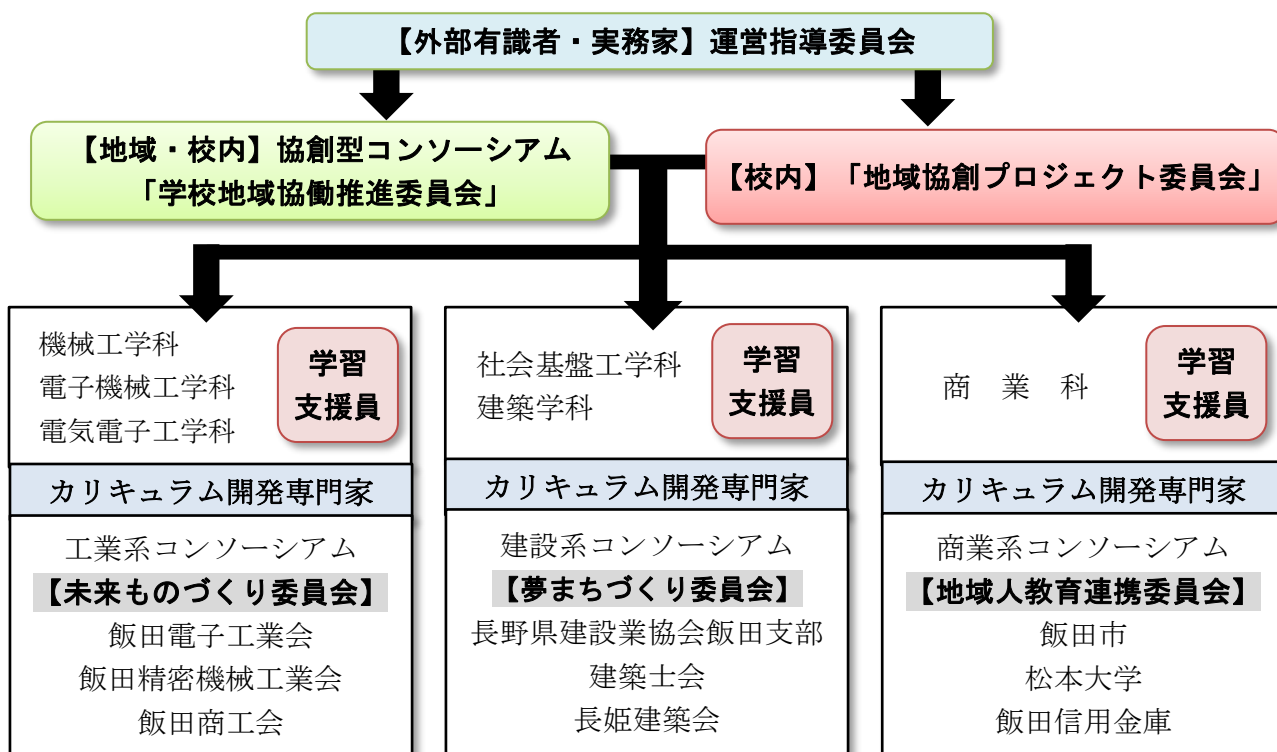
機関名	機関の代表者名
機械・電子・電気系コンソーシアム <b>【未来ものづくり委員会】</b> 飯田精密機械工業会 飯田電子工業会 飯田商工会議所	会長（株式会社キンポーメルティック社長）野沢稔弘 会長（信菱電機株式会社代表取締役社長）川手清彦 会頭（南信スバル株式会社会長）柴田忠昭
建設系コンソーシアム <b>【夢まちづくり委員会】</b> 長野県建設業協会飯田支部	支部長（北沢建設株式会社代表取締役）北沢資謹
商業系コンソーシアム <b>【地域人教育連携委員会】</b> 松本大学（地域人教育三者連携） 飯田市（地域人教育三者連携） 飯田信用金庫	松本大学学長 住吉廣行 飯田市市長 牧野光朗 飯田信用金庫理事長 小池 貞志
飯田OIDE長姫高等学校（設置者：長野県）が各コンソーシアムを設置し構成員（委員）になる。	

#### (2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

現在、飯田市は「環境モデル都市」として、持続可能な地域づくりに環境保全や再生可能エネルギー活用を促進している。また、人口減が見込まれることから、人材が還流するためのサイクルの構築が急がれており、具体的には航空宇宙産業の振興をはじめ、新しい産業へ対応する人材育成が課題である。そこで本事業を行うことで、現在本校にある3つのコンソーシアムと協働

し、地域の産学官や異業種とも連携し、新たな付加価値・産業の創発(オープン・イノベーション)ができる「地域協創スペシャリスト」の育成を図る。

### (3) コンソーシアムにおける研究開発体制



### (4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

カリキュラム開発等専門家は、各専門学科で産学官と連携して実施する諸事業（講演、授業支援、事業所見学、企業展示説明会、地域フィールドワーク、専門職就業体験、専門資格取得支援等）を通して、本事業の目標である生徒の「専門性」「課題解決力」「協創力」の育成に向け効果的な事業となるよう学校と連携先事業所との間のコーディネート（紹介、連絡、調整等）を行う。

学科名	カリキュラム開発等専門家
機械工学科・電子機械工学科・ 電気電子工学科	KOA株式会社 下伊那ビジネスフィールド 厚膜センター・ゼネラルマネージャー 内川洋一
社会基盤工学・建築学科	長野県建設業協会飯田支部理事 野島建設株式会社代表取締役 野島登
商業科	飯田市公民館副館長 秦野高彦

### (5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習実施支援員は、カリキュラム開発等専門家のコーディネートした諸事業（講演、授業支援、事業所見学、企業展示説明会、地域フィールドワーク、専門職就業体験、専門資格取得支援等）において、実際に生徒の学習グループに入って教員とともに授業や実習等の支援を行う。

学科名・コンソーシアム名	地域協働学習実施支援員
機械工学科・電子機械工学科・ 電気電子工学科 【未来ものづくり委員会】	飯田産業センター オーガナイザー 環境産業支援コーディネーター 久保田優典

社会基盤工学科・建築学科 【夢まちづくり委員会】	長野県建設業協会飯田支部 事務局長 牧田孝好
商業科 【地域人教育連携委員会】	飯田商工会議所 青年部事業・研修委員長 株式会社週休いつか代表取締役 新海健太郎

## (6) 運営指導委員会の体制

運営指導委員会の設置目的は外部有識者による本事業の運営指導である。本事業の目標である外部の専門的な見地から、本事業の目標である生徒の「専門性」「課題解決力」「協創力」の育成に向けて、また全学科の共通テーマである「環境」「地域資源」「ビジネス」に関する学習を効果的に実施するために、各コンソーシアム及びそれを統括する学校全体（地域協働推進委員会）の事業計画、取組内容、事業報告について、授業参観や課題研究発表会、活動報告などを通して指導及び助言を行う。

氏名	所属・職名
平岡 和久	立命館大学 政策科学部教授（自治体分析と地域政策） 学輪 I I D A 実行委員会委員
田開 寛太郎	松本大学 総合経営学部ホスピタリティ学科専任講師 学輪 I I D A 実行委員会委員
木下 悦夫	飯田市副市長
中谷 秀幸	長野県南信州地域振興局環境課長

## (7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

### ア 研究成果報告

12月に各学科で実施する「課題研究発表会」と「地域人教育学習成果発表会」及び1月に全学科で実施する「課題研究学習成果発表会」により、連携と研究に関わる各コンソーシアム関係者、地域企業、保護者、地域及び県内外の高校へ、学習成果を発表する。また、学校HP、及びO I D E長姫通信（W e b上で公開している学校のブログ）にて随時掲載することで、研究の実施内容と成果を地域、保護者、学校職員等に周知する。

またコンソーシアム主催の各事業については、随時県内全高校に案内通知する。県及び各支会単位の商業教育研究会、工業教育研究会、及び産業教育振興会の会議や研究会において、随時実践内容や成果を発表する。

### イ 事業成果の検証

(I) 工業科の新学校設定科目「地域ビジネスと環境」、商業科の新学校設定科目「環境と金融」

「環境保全」の分野は東京商工会議所の公的資格「環境社会（e c o）検定」を受検できるレベルに、「ファイナンス」の分野は厚生労働省国家資格「ファイナンシャル・プランニング技能士検定3級」を受検できるレベルを目指す。生徒への評価は、定期テスト、生徒アンケート、観点別のルーブリック評価等で行う。

(II) 学校設定科目「テックレンジャー活性化プロジェクト」（工商融合選択科目）

地域への貢献度（地域イベントへの参加数、参観者数、アンケート等）によりその成果を評価する。生徒への評価は評価観点を具体的に設定して、パフォーマンス評価を行い、地域への貢献度の観点から評価する。



### (Ⅲ) 「課題研究」「地域人教育」

学科毎に評価観点を具体的に設定して、パフォーマンス評価を行い、客観性を担保するように商業科で現在研究中である。また、12月に工業科で実施する「課題研究発表会」と、商業科で実施する「地域人教育学習成果発表会」及び1月に全学科で実施する「課題研究学習成果発表会」における関係者、参観者及び生徒・職員のアンケートについては評価の参考とする。

### (Ⅳ) 各コンソーシアムの諸事業

「専門性」「課題解決力」「協創力」の育成に向け、コーディネート（連絡、調整等）を行う。企画立案運営を支援するカリキュラム開発等専門家及び、実際に生徒の学習グループに入って教員とともに授業や実習等教育活動を支援する地域協働学習実施支援員については、学校長がそれら職務の遂行状況について、定期的に確認し、運営指導委員会に報告し、必要な場合は改善を指示する。

### (Ⅴ) 海外交流事業

事前の準備から観察し、実施後速やかにかつ詳細に連携先を招聘した報告会を実施し、海外での評価や、連携先職員と生徒のアンケート、本校の職員と生徒のアンケート、地域発表等でのアンケート、生徒の自己評価、観点別ルーブリック評価から効果の検証を行う。

## (8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

各コンソーシアムは、現在各専門学科と連携して様々な主体的取組を実施している。コンソーシアムを学科横断的に機能させるために、協創型コンソーシアム「学校地域協働推進委員会」を設置し、学科横断的な取り組みを拡充させ、この研究開発の目的に合った生徒の能力開発を推進する。「環境保全」、「地域資源」、「ビジネス」という3つの共通テーマで各コンソーシアムを統括し、各事業での連携を取り合い、学校の教育課程と関連付けるカリキュラム・マネジメントを行う。

コンソーシアム・アドバイザーを構成員とする学校地域協働推進委員会を、以下の通り指定する。

氏名	所属・職名	役割（専門分野等）
白戸 洋	松本大学 総合経営学部教授 コンソーシアム・アドバイザー	指導・助言 (地域人教育・地域連携)
遠山 昌和	飯田市 産業経済部長 コンソーシアム・アドバイザー	指導・助言 (地域と経済・産業)
山下 尚宏	飯田信用金庫 地域サポート部長 コンソーシアム・アドバイザー	指導・助言 (地域と金融)
北沢 資謹	北沢建設社長・飯田建設業協同組合理事長 コンソーシアム・アドバイザー	指導・助言 (土木・建築関係)
川手 清彦	(株)信菱電機社長 飯田電子工業会長 コンソーシアム・アドバイザー	指導・助言 (機械電気電子系)
野沢 稔弘	(株)キノポ-マルチック社長 飯田精密機械工業会長 コンソーシアム・アドバイザー	指導・助言 (機械電気電子系)

※学校地域協働推進委員会は、この委員に校長・教頭・工業系学科代表・建設系学科代表・商業科代表の5名が加わる。

## (9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

研究課題に向けた生徒の能力開発に相乗効果が上がるように関連付け（カリキュラム・マネジメント）を行うスキームを制度として確立させ、研究期間終了後も継続させる。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	いいだおーあいでいーいーおさひめ				②所在 都道府県	長野県	
2019～2021	① 学校名	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校						
② 対象学科名 (全日制)	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計			
機械工学科	40	41	40		121	全日制:機械工学科(1), 電子機械工学科(1), 電気電子工学科(1), 社会基盤工学科(1), 建築学科(1), 商業科(2) 定時制:普通科(1), 基礎工学(1) 全校生徒数: 918名(全日制817名, 定時制101名)		
電子機械工学科	38	36	40		114			
電気電子工学科	40	38	39		117			
社会基盤工学科	40	37	32		109			
建築学科	40	35	40		115			
商業科	82	79	80		241			
⑥研究開発構想名	<b>未来価値を創る玉手箱「地域協創型スペシャリスト」育成プログラム</b>							
⑦研究開発の概要	総合技術高校の強みを生かし、工業科と商業科について専門性を追究するとともに、学科間連携から「環境保全」, 「ビジネス」, 「地域資源」の有効利用の面から、多角的で実践的・探究的な考え方と行動ができ、かつ地域の産学官や異業種とも連携し、 <b>新たな付加価値・産業の創発(オープン・イノベーション)ができる「地域協創スペシャリスト」</b> の育成を目的とする。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<b>(1)目的・目標</b> 新たな付加価値・産業の創発(オープン・イノベーション)ができる「地域協創スペシャリスト」の育成を目的とする。						
		<b>(2)現状の分析と研究開発の仮説</b> 本校には、3つのコンソーシアムが構築され、ユニークで実践的に取り組んでいる。現在、飯田市は「環境モデル都市」として、持続可能な地域づくりに環境保全や再生可能エネルギー活用を促進している。また、人口減が見込まれることから、人材が還流するためのサイクルの構築が急がれており、具体的には航空宇宙産業の振興をはじめ、新しい産業へ対応する人材育成が課題である。 (ア)環境・地域資源・ビジネスの3つを共通テーマとし、専門性を深める系統的な教育課程及びコンソーシアムと連携した実践的授業を継続することに加え、全ての業種で必要な「All purpose technology」を学ぶ学校設定科目を設置する。 ・複合的な視点から、自らの専門性を探究し、高度な専門性を追究する力 ・多角的で客観的に考える力 >>> 探究型プロフェッショナルとしての「高度な専門性」 (イ)「地域人教育」を全学科の取組に広げるため、地域課題の解決や地域づくりに関する授業を1年次から教科横断的な基礎学習として行い、ビジネスやものづくりに結び付けた「未来の地域人教育」として実践をおこなう。 ・主体的で探究的な考え方、行動力、実践力及びプレゼンテーション能力 ・専門学科の学びを生かした課題解決力と経営管理(マネジメント)能力 ・地域へのロイヤルティ(愛着心)を育成 >>> 未来の地域人教育の実践を通じた主体的な「課題解決力」 (ウ)各コンソーシアムが連携して、学科横断的に異業種も含めた各科の専門教育を行う協創型コンソーシアム「学校地域協働推進委員会」を設置し、生徒の斬新で独創的なアイデアのトライアルアンドエラーが実践できる学科間連携・融合授業やプロジェクト型学習を実践。 ・高度な専門性を追究する力と経営管理能力の双方が結びついた人材の育成 ・プロジェクト型学習を実践で個々の能力を伸長 ・専門を異にする学びから様々なアイデアが融合され、革新的で斬新的な発想 >>> 地域産学官異業種と協働して新しい付加価値を創り出す「協創力」						

⑧- 2 具 体 的 内 容	<p><b>(3) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</b>  <b>【探究型プロフェッショナルとしての「高度な専門性」の育成を目指す】</b></p> <p>(ア) コンソーシアムと連携した実践及び研究開発      実践的・体験的な工業技術，土木建築，ビジネスの各分野の専門性を探究する。</p> <p>(イ) 地域公開講座の実施および研究開発      ビジネス系資格取得を目指す場として実施し，生徒と地域住民がともに学ぶ。</p> <p>(ウ) 学校設定教科・学校設定科目の研究開発      現在行われている学校設定教科を次のとおり変更して設置する。      工業科「商業基礎」→環境学習とまちづくり等を学ぶ「地域ビジネスと環境」      商業科「ITシステム」→環境保全における資金の流れ等を学ぶ「環境と金融」      以上の実施内容と並行して，各専門学科の専門性を追究する教育課程の充実を行う。</p> <p><b>【主体的な「課題解決力」の育成を目指す】</b></p> <p>(ア) 工業科における「地域人教育」の実践及び研究開発      「ものづくり地域人教育」：工業技術を生かした地域課題解決を目指す。</p> <p>(イ) 商業科における「地域人教育」の実践及び研究開発      「ビジネス地域人教育」：ビジネスにおける諸活動を通して地域課題解決を目指す。</p> <p>(ウ) 地域人教育を進めるための1年次での教科横断的な基礎学習の研究開発      1年次の普通教科で横断的に，課題解決学習と関連付けた地域の自然環境や文化・産業，統計学の基礎やプレゼン技術，地域の防災などを学ぶ。</p> <p><b>【新たな付加価値を創り出す「協創力」育成を目指す】</b></p> <p>(ア) 学校地域協働推進委員会の設置      3つの既存のコンソーシアム代表と，カリキュラム開発等専門家，松本大学，飯田信用金庫及び飯田市で構成し，各コンソーシアムの事業を他学科も巻き込んで効果的に実施するための内容や方法，学科間連携科目や融合科目への提言，効果的な指導方法や内容等の研究を行う。</p> <p>(イ) テックレンジャー活性化プロジェクトと学科融合科目の実践及び研究開発      本年度は学校設定科目「商品開発実践」（学科融合選択科目）において，模擬株式会社形態をとりながら，各科の生徒がテックレンジャーを題材としてマーケティング等を実践する。</p> <p>(ウ) UVプリンタ活用を題材にした学科融合実践及び研究開発      課題研究等の科目を中心に，UVプリンタで作成できるもの（使用用途）を工業科が提案し，作品（製品）の活用方法（アイデア）を商業科で提案することを互いに繰り返しながら，新たな価値を創造する。</p> <p>(エ) 海外交流事業を活用した学科融合実践及び研究開発      「地域人教育」や「テックレンジャー活性化プロジェクト」の学習成果を，シャルル・ヴィル・メジエール市（フランス）で披露し交流することで，異文化との交流や多様性の理解から「協創力」を培う活動につなげる。</p> <p><b>(4) カリキュラム・マネジメントの推進体制</b>      「運営指導委員会」および「学校地域協働推進委員会」の教育課程に対する意見や感想が「校内研究開発推進委員会」を通じて校内「教育課程委員会」で検討された後，職員会議に提案され学校長が決定するスキームを構築する。さらに各学科のコンソーシアムから意見が反映されるよう，各コンソーシアムを代表する「コンソーシアム・アドバイザー」を「学校地域協働推進委員会」の委員に委嘱し，各コンソーシアムの意見が教育課程，授業等に機動的・弾力的に反映するスキームを構築する。</p> <p><b>(5) 必要となる教育課程の特例等 特になし</b></p>
⑨その他 特記事項	<p>本校では各学科の地域コンソーシアムが機能している。生徒の能力開発に向け，地域人教育と学科連携を通して，より効果的かつ学科横断的に機能する教育課程の研究開発を行う。</p>